

## 景気動向調査結果

この調査は、県内中小企業の景況・金融動向を把握するため、当協会の保証を利用されている企業の皆様のご協力により、四半期ごとにアンケートを実施しているものです。

### 【調査方法】

Webによる無記名アンケート方式  
調査時点 令和8年3月2日発送  
令和8年3月16日回答期限  
調査対象 信用保証利用先3,000企業  
有効回答数 385 企業(回答率 12.8%)

※ 当期: R08年1月～3月実績見込  
次期: R08年4月～6月期予測

### 【DI値について】

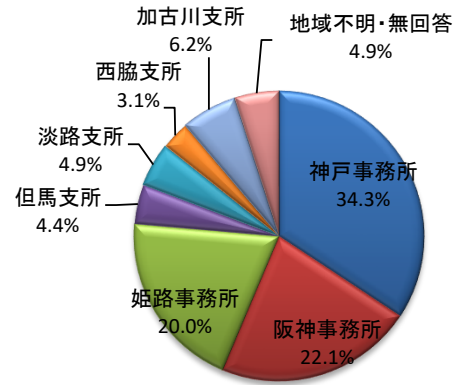
- ◎回答の各構成比を算出し、「増加」・「好転」等の項目割合から「減少」・「悪化」等の割合を差引いて算出しています
- ◎表示されている構成比とDI値は、四捨五入の関係で必ずしも一致しません

兵庫県信用保証協会

## I. 貴社の概要について

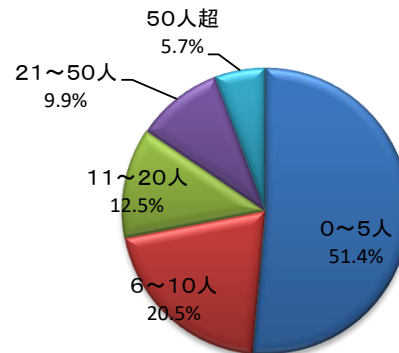
主たる事業所の所在地はどこにありますか。

当協会の部署	回答数	構成比
神戸事務所	132	34.3%
阪神事務所	85	22.1%
姫路事務所	77	20.0%
但馬支所	17	4.4%
淡路支所	19	4.9%
西脇支所	12	3.1%
加古川支所	24	6.2%
地域不明・無回答	19	4.9%
合計	385	100.0%



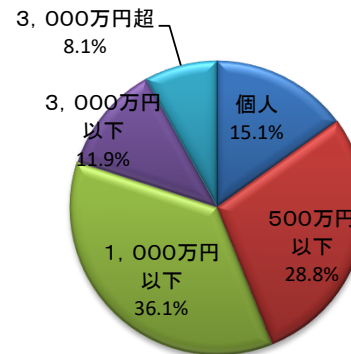
従業員数をご記入ください。

従業員数	回答数	構成比
0～5人	198	51.4%
6～10人	79	20.5%
11～20人	48	12.5%
21～50人	38	9.9%
50人超	22	5.7%
無回答	0	0.0%
合計	385	100.0%



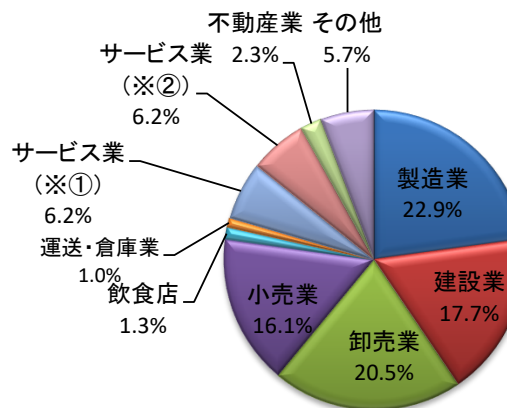
資本金をご記入ください。 ※個人は「0万円」と記入

資本金	回答数	構成比
個人	58	15.1%
500万円以下	111	28.8%
1,000万円以下	139	36.1%
3,000万円以下	46	11.9%
3,000万円超	31	8.1%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



主要な事業は以下のどの業種に分類できますか。

業種	回答数	構成比
製造業	88	22.9%
建設業	68	17.7%
卸売業	79	20.5%
小売業	62	16.1%
飲食店	5	1.3%
運送・倉庫業	4	1.0%
サービス業(※①)	24	6.2%
サービス業(※②)	24	6.2%
不動産業	9	2.3%
その他	22	5.7%
無回答	0	0.0%
合計	385	100.0%



※① 事業者を対象

※② 一般消費者を対象

**Ⅱ. 貴社の景況、借入難易感についてお尋ねします。**

- (1) 当期(26年1~3月期)は、前期(25年10~12月期)に比べどのような状況ですか。
- (2) 次期(26年4~6月期)は、当期(26年1~3月期)に比べどう思いますか。

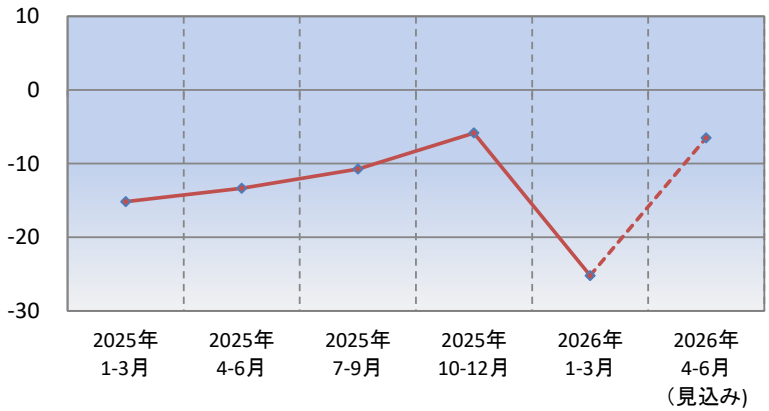
**【生産・売上】**

当期

選択肢	回答数	構成比
増加した	79	20.5%
変わらない	130	33.8%
減少した	176	45.7%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
増加すると思う	111	28.8%
変わらないと思う	138	35.8%
減少すると思う	136	35.3%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



生産・売上DI(増加-減少)

調査時期 (実績)	2024年 1~3月	2024年 4~6月	2024年 7~9月	2024年 10~12月	2025年 1~3月	2025年 4~6月	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月 (見込み)
兵庫県	▲ 22.2	▲ 16.5	▲ 8.1	▲ 4.3	▲ 15.2	▲ 13.3	▲ 10.7	▲ 5.9	▲ 25.2	▲ 6.5

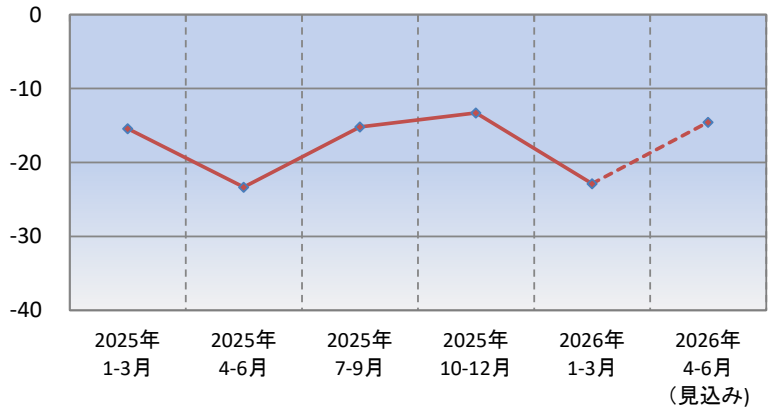
**【採算】**

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	57	14.8%
変わらない	183	47.5%
悪化した	145	37.7%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	68	17.7%
変わらないと思う	193	50.1%
悪化すると思う	124	32.2%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



採算DI(好転-悪化)

調査時期 (実績)	2024年 1~3月	2024年 4~6月	2024年 7~9月	2024年 10~12月	2025年 1~3月	2025年 4~6月	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月 (見込み)
兵庫県	▲ 28.1	▲ 23.8	▲ 19.2	▲ 14.5	▲ 15.4	▲ 23.3	▲ 15.2	▲ 13.3	▲ 22.9	▲ 14.5

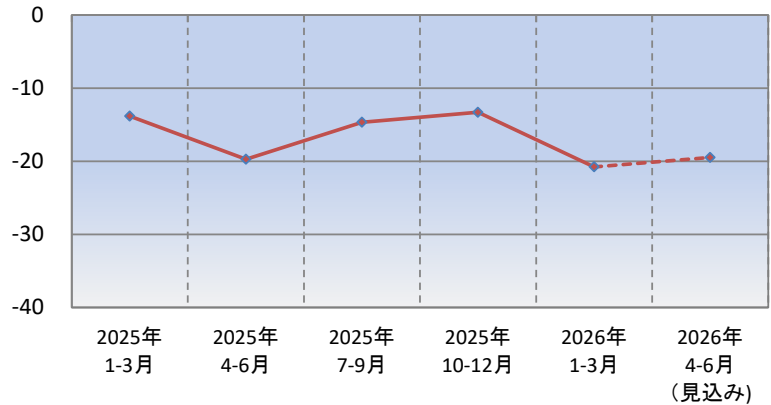
【資金繰り】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	34	8.8%
変わらない	237	61.6%
悪化した	114	29.6%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	36	9.4%
変わらないと思う	238	61.8%
悪化すると思う	111	28.8%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



資金繰りDI(好転-悪化)

調査時期 (実績)	2024年 1~3月	2024年 4~6月	2024年 7~9月	2024年 10~12月	2025年 1~3月	2025年 4~6月	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月 (見込み)
兵庫県	▲ 23.4	▲ 20.5	▲ 17.7	▲ 16.8	▲ 13.8	▲ 19.7	▲ 14.7	▲ 13.3	▲ 20.8	▲ 19.5

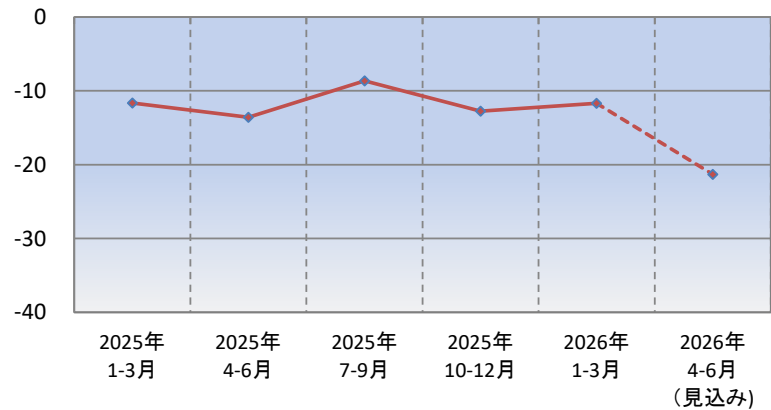
【借入難易感】

当期

選択肢	回答数	構成比
容易になった	19	4.9%
変わらない	302	78.4%
難しくなった	64	16.6%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
容易になると思う	19	4.9%
変わらないと思う	265	68.8%
難しくなると思う	101	26.2%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



借入難易感DI(容易-難しい)

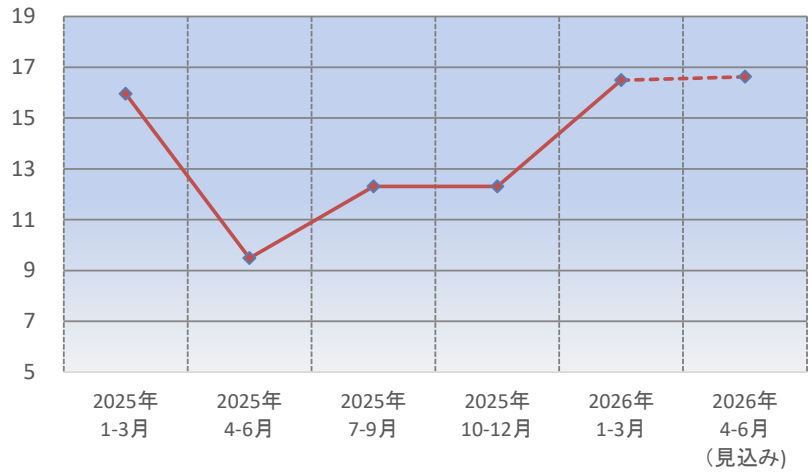
調査時期 (実績)	2024年 1~3月	2024年 4~6月	2024年 7~9月	2024年 10~12月	2025年 1~3月	2025年 4~6月	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月 (見込み)
兵庫県	▲ 12.3	▲ 13.0	▲ 10.8	▲ 8.0	▲ 11.7	▲ 13.6	▲ 8.6	▲ 12.8	▲ 11.7	▲ 21.3

当期(1-3月)のDI値は、前期(10-12月)に比べ「生産・売上」「採算」「資金繰り」において悪化し、「借入難易感」において改善しました。  
 次期(4-6月)のDI値は、当期(1-3月)に比べ「生産・売上」「採算」「資金繰り」において改善し、「借入難易感」において悪化する見込みとなっています。

【金融機関からの信用保証付要請】

次期

選択肢	回答数	構成比
強まると思う	88	22.9%
変わらないと思う	273	70.9%
弱まると思う	24	6.2%
無回答	0	0.0%
総計	385	100.0%



信用保証付要請DI(強まるー弱まる)

調査時期 (見込み)	2023年 10~12月 (1~3月)	2024年 1~3月 (4~6月)	2024年 4~6月 (7~9月)	2024年 7~9月 (10~12月)	2024年 10~12月 (1~3月)	2025年 1~3月 (4~6月)	2025年 4~6月 (7~9月)	2025年 7~9月 (10~12月)	2025年 10~12月 (1~3月)	2026年 1~3月 (4~6月)
兵庫県	15.6	11.1	16.0	10.1	16.0	9.5	12.3	12.3	16.5	16.6

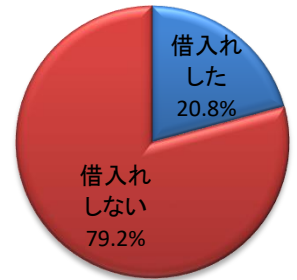
金融機関からの信用保証付要請は、「強まると思う」とする回答が、「弱まると思う」とする回答を上回っています。

### Ⅲ.当期(26年1～3月期)の借入れ(実績見込)についてお尋ねします。

当期に金融機関から借入れをされましたか。  
※手形の割引は含めません

選択肢	26年1～3月期		25年10～12月期	25年7～9月期	25年4～6月期	25年1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
借入れした	80	20.8%	23.9%	28.0%	20.0%	24.9%
借入れしない	305	79.2%	76.1%	72.0%	80.0%	75.1%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	385	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

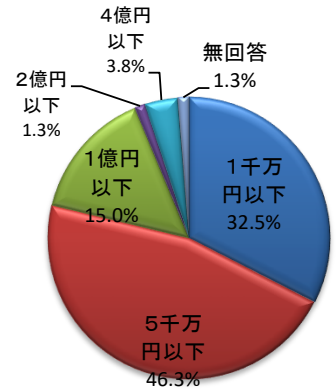
当期の借入れは、前回調査と比べ、3.1ポイント減少しています。



当期に借入れした総額はいくらですか。

借入れ総額	26年1～3月期		25年10～12月期	25年7～9月期	25年4～6月期	25年1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
1千万円以下	26	32.5%	26.7%	30.8%	34.6%	35.9%
5千万円以下	37	46.3%	43.3%	45.8%	47.4%	43.5%
1億円以下	12	15.0%	20.0%	14.0%	11.5%	15.2%
2億円以下	1	1.3%	5.6%	5.6%	2.6%	0.0%
4億円以下	3	3.8%	0.0%	1.9%	2.6%	2.2%
4億円超	0	0.0%	3.3%	1.9%	0.0%	2.2%
無回答	1	1.3%	1.1%	0.0%	1.3%	1.1%
総計	80	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

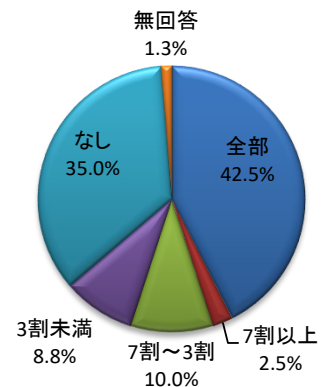
当期の借入総額は、前回調査と比べ「1千万以下」が5.8ポイント増加し、「1億円以下」が5.0ポイント減少しています。



当期の借入金額のうち、信用保証付き借入れの割合はどのくらいですか。

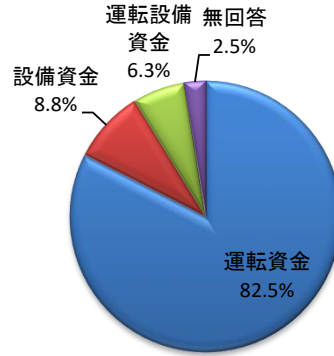
選択肢	26年1～3月期		25年10～12月期	25年7～9月期	25年4～6月期	25年1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	34	42.5%	34.4%	29.0%	41.0%	34.8%
7割以上	2	2.5%	10.0%	5.6%	6.4%	9.8%
7割～3割	8	10.0%	17.8%	11.2%	10.3%	6.5%
3割未満	7	8.8%	5.6%	9.3%	3.8%	5.4%
なし	28	35.0%	30.0%	44.9%	37.2%	42.4%
無回答	1	1.3%	2.2%	0.0%	1.3%	1.1%
総計	80	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

信用保証付き借入れの割合は、前回調査と比べ「全部」とする回答が8.1ポイント増加しています。



当期借入金の目的は何ですか。

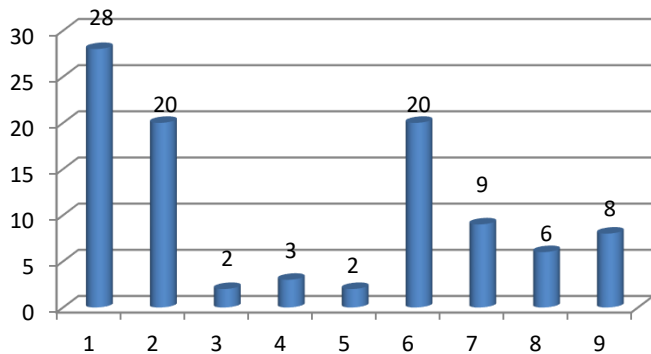
選択肢	回答数	構成比
運転資金	66	82.5%
設備資金	7	8.8%
運転設備資金	5	6.3%
無回答	2	2.5%
総計	80	100.0%



当期借入金の目的は、「運転資金」とする回答が大半を占めています。

上記で「運転資金」「運転設備資金」と答えた方は、運転資金の種類は何ですか(複数回答)。

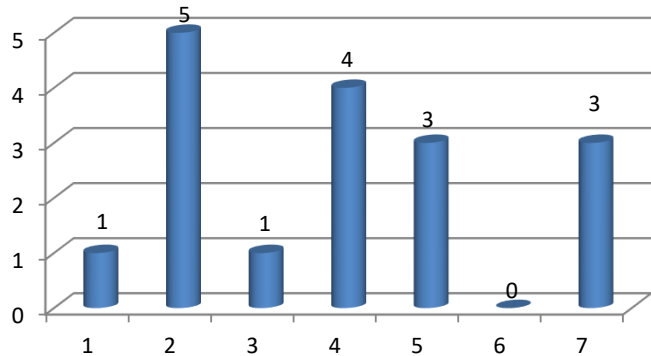
選択肢	回答数
1 既往借入の借換え	28
2 売上減少・赤字補填	20
3 過剰在庫対応	2
4 支払条件短縮対応	3
5 回収条件悪化対応	2
6 売上増加運転資金	20
7 在庫積み増し	9
8 季節運転資金	6
9 その他	8
総計	98



運転資金の種類は、「既往借入の借換え」が最も多く、次いで「売上減少・赤字補填」および「売上増加運転資金」となっています。

上記で「設備資金」「運転設備資金」と答えた方は、設備資金の種類は何ですか(複数回答)。

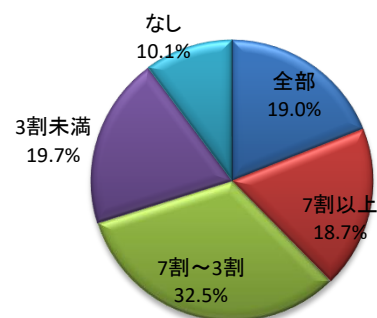
選択肢	回答数
1 新規事業	1
2 生産増強	5
3 合理化・効率化	1
4 設備老朽化に伴う入替	4
5 修理・修繕	3
6 公害防止・環境関連	0
7 その他	3
総計	17



設備資金の種類は、「生産増強」が最も多く、次いで「設備老朽化に伴う入替」となっています。

IV. 信用保証の利用についてお尋ねします。当期末(26年3月末)借入総残高に占める信用保証利用の割合はどのくらいですか。

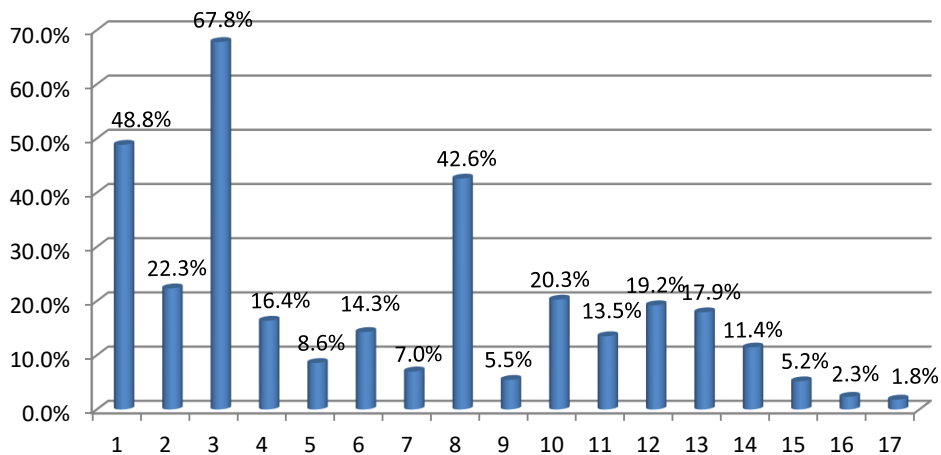
選択肢	26年1～3月期		25年10～12月期	25年7～9月期	25年4～6月期	25年1～3月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	73	19.0%	16.5%	17.0%	18.5%	20.3%
7割以上	72	18.7%	26.1%	17.5%	19.2%	19.2%
7割～3割	125	32.5%	26.1%	31.9%	29.0%	30.4%
3割未満	76	19.7%	23.9%	22.5%	25.1%	22.5%
なし	39	10.1%	7.4%	11.0%	8.2%	7.6%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	385	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



信用保証利用の割合は、「全部」「7割～3割」「なし」とする回答が増加し、「7割以上」「3割未満」とする回答が減少しました。

V. その他(経営上の課題等)について該当する番号をご記入ください(複数回答)。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
1 売上・受注の減少	188	48.8%	9 過剰在庫	21	5.5%
2 競争激化	86	22.3%	10 設備投資	78	20.3%
3 コスト高	261	67.8%	11 後継者難	52	13.5%
4 業界構造変化	63	16.4%	12 資金調達	74	19.2%
5 取引条件の悪化	33	8.6%	13 借入過多	69	17.9%
6 消費者ニーズの多様化	55	14.3%	14 為替	44	11.4%
7 技術・商品開発	27	7.0%	15 海外景気の減速	20	5.2%
8 人材・労働力の確保	164	42.6%	16 米国関税措置の影響	9	2.3%
			17 その他	7	1.8%



経営上の課題は、「コスト高」「売上・受注の減少」「人材・労働力の確保」が群を抜いて上位となっており、次いで、「競争激化」「設備投資」「資金調達」の順となっています。